

第22回 矯正治療への機能的咬合の応用 (定期的開催)

矯正治療で顎関節を無視しても大丈夫？

ROTH PHILOSOPHY BASIC COURSE

❖ 開催の目的

アングルⅡ級下顎後退している症例で実際どれ程下顎が後退しているのか、それを3次的に知るには下顎頭のTMJ内での位置を知ることが必要である。口腔内を見ているだけで顎位を理解するには限界がある。患者にただ咬んでと言っただけでそれを把握することは海面だけをみて潮の流れを正確にとらえようとしているのと同じである。

歯の並びを希望して来院した患者に装置を入れたところ、口の中での咬み合わせが大きく変化するのを経験する。臨床医にとってコンスタントに良い結果を得ることは非常に重要で、そのため歯の移動を行う前に顎位を確認することにより、矯正を審美的な処置から治療といえるレベルに押し上げまたおもしろくする。歯科医療の目的は長く自分の歯で咀嚼可能にすることで、矯正治療はそのことを達成するのに大事な役割があると思う。その第一歩が安定した顎位を知り、その顎位をもとに歯の並びを整えることそのためのコースである。

❖ コース内容

SESSION 1

1. 機能的咬合のコンセプト
2. 矯正治療で顎関節を意識する必要性
3. 咬合器などのインスツルメントをどのように診断に用いるか
4. Bite Registration (CO&CR)
5. 初診時にだいたい顎位を知る
6. Splint Cast Technique
7. 口の中で上下の歯を合わせるため、TMJレベルで生じるズレを計る

SESSION 2

1. COでのセフからCRのセフへ
2. 顎位安定後からの診断
3. Splint Therapyその意義と進め方
4. スプリントの作成
5. 成長期の円板転位について
6. 下顎の成長には円板の位置と顎位安定が重要
7. CBCT&MRIによる顎関節診断

SESSION 3

1. スプリントの調整
2. 顎位の安定は歯の並びへのスタート地点
3. 顎位の安定を見定める為のポイント
4. 円板の位置と顎位の安定性との関連
5. 思春期顎関節をチェックする必要性について
6. 症例を通じた考察、安定後実際どのように矯正治療を進めるのか
7. 円板転位患者の矯正治療例

❖ 講師



池田 和己 D.D.S

ヒルサイドビュー矯正歯科

- 1979 日本大学 歯学部 卒業
- 1981 ペンシルバニア大学 歯学部矯正科 卒業
- 1989 American Board of Orthodontics 取得
- 1985 - 87 サンフランシスコにてRoth/Williams 2年間コース受講
- 1990 - Roth/Williams International セミナー主催
- 2014 TMJ 1st Orthodontics
-Concepts, Mechanics, and Stability- 出版
- 2021 Face Design and Orthodontics 出版

日程

- SESSION 1 2022年10月12日(水) - 13日(木)
- SESSION 2 2022年11月9日(水) - 10日(木)
- SESSION 3 2022年12月7日(水) - 8日(木)

会場

ヒルサイドビュー矯正歯科

〒150-0033

渋谷区猿楽町 24-7 代官山プラザ 3F

TEL : 03-3780-8177 FAX : 03-3780-8178

【交通】

JR 東京駅より約 30 分、羽田空港より約 50 分
東急東横線 代官山駅 (渋谷駅より約 5 分) から徒歩 1 分

受講料

各セッション 150,000 円 (税抜き)

定員

9 名 (矯正専門医)

申込方法

Fax または e-mail、ヒルサイドビュー矯正歯科ホームページの専用フォームにてお願い致します。

Fax : 03-3780-8178 E-mail : ikedakzm@tkd.att.ne.jp

http : //www.hillsideview.com/jpn/seminar/basic22/

(ローマ字)
ご氏名

勤務先医院名

ご連絡先住所
〒

TEL

FAX

E-Mail

ご略歴

主催 トップノッチ企画

お問合せ先
ヒルサイドビュー矯正歯科

渋谷区猿楽町 24-7
代官山プラザ 3F

TEL : 03-3780-8177

FAX : 03-3780-8178